

今月の一言 NO.214

キーワード：パーキンソンの法則 第1法則

第1法則：仕事の量は、完成のために与えられた時間をすべて満たすまで膨張する

どういう意味なのか、簡単に説明すると、「30分でできる仕事でも1時間の時間を与えられると、終わるまでに1時間かかってしまう」というようなことです。たとえば、仕事量に関わらずいつも忙しそうで、何をやらせても納期ギリギリまでかかってしまう、という人を見たことがありますか？

10の物量の仕事をしているときにすごく忙しそうで、「ああ、これがキャパのギリギリなんだろうな」と思っていたのに、いざ20の物量の仕事を与えられたときにも、なんだかんだでギリギリこなす、といった感じの人です。

これはまさに、パーキンソンの第1法則が働いている状態だと言えます。

結論から言うと、20の仕事をおこなすキャパシティは少なくとも持っているということになります。にもかかわらず、この人は10の仕事をおこなすだけで余裕がなくなり、疲弊してしまうわけです。つまり、本来20の仕事ができる時間を、10の仕事をおこなす際にもいっぱいいっぱいを使い切ってしまうということなのです。しかも、時間がある分余裕を持ってクオリティを上げている、というわけでもありません。ただ単純に、時間を無駄にして、余裕がなくなっているだけなのです。

では、なぜこのようなことが起こるのかというと、その理由は、

- ①時間がある分、集中力に欠けている
- ②時間に余裕があると、仕事に取り掛かるまでが遅くなってしまう

パーキンソンの第1法則にとらわれてしまうと、仕事量に関係なく、常に余裕を失ってしまうということですね。

そしてこれは、個人だけではなく、組織にも十分に起こり得ます。

パーキンソンの第1法則に対しては、以下のような対策が効果的です。

- ①時間に余裕があるときは自分で締め切りを設定する
- ②仕事をタスクで分けて時間管理する
- ③あえて人員を減らす

自分で判断する！

令和元年10月25日

さいのう とおる

追伸：残り2ヶ月となりました。しっかりと、目標を認識して実行しましょう！